

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
53	漏洩	2	4	2	千葉県	なし	熱交換器への移送配管(二重管)の中に入っているスチーム配管が、何らかの原因で開口スチーム配管のドレンからC重油が流出したもの。河川流出は無く、現在漏洩は停止している。
54	火災	2	4	3	山口県	なし	セメント工場の定修中に石灰乾燥炉内部に設置していた木材足場材から出火。自衛・公設消防で消火中。炎は見えない煙は減少しており、火災は、石灰乾燥炉内のみで封じ込めている。危険物等の漏えいはなし。
55	漏洩	2	4	4	茨城県	なし	構内において、プレポリマー(危険物第4類)が漏洩しているとの通報。詳細不明。
56	漏洩	2	4	7	愛知県	なし	屋外タンク貯蔵所(951kL)に1.0mm程度の亀裂が発生し、防油堤内に軽油が漏洩。漏油は防油堤内に収まり、海への流出はなし。
57	火災	2	4	9	神奈川県	なし	廃材置き場の紙類及び廃プラスチックを約3立方メートル焼損。同日22:05鎮火。
58	漏洩	2	4	9	和歌山県	なし	2インチ保温配管からキシレン約500Lが漏えい。
59	火災	2	4	11	茨城県	なし	構内において、釜から溶鋼が漏れているとの通報。自衛防災隊により冷却活動を実施。負傷者は無し。火災原因は熱延工場の4階部分で溶鋼をにがしピットに移す際にあふれたことによるもの。
60	漏洩	2	4	11	神奈川県	なし	リアクターバイパスから灯油が約1リットル漏えいしたもの。
61	漏洩	2	4	12	千葉県	なし	高さ10m付近にあるベルトコンベアのプーリーの軸が燃えた。
62	火災	2	4	12	愛知県	中等症1名	電気炉の出鋼口の清掃作業中に溶鋼等が着衣に付着して出火し、その作業員1名が負傷した。
63	漏洩	2	4	13	千葉県	なし	東京湾排水溝から油漏洩。詳細調査中。
64	漏洩	2	4	14	茨城県	なし	タンク(JET燃料、3万KL)の側面の変形。漏洩なし。海上流出の恐れなし。目視点検によりタンク各部位に問題がないことを確認。タンク内から移送(払出し)を4月14日13:25開始。所要時間16時間を予定。4月15日(水)4時52分JET燃料の移送終了
65	漏洩	2	4	14	神奈川県	なし	事業所内にある熱交換器配管からエチレンガス200リットル漏洩。消防隊は閉鎖した配管内に窒素ガスを注入し、残留したエチレンガスを大気に拡散した。同日19:53処理完了。
66	漏洩	2	4	15	愛知県	軽症4人	硫黄を燃料して生成した二酸化硫黄ガスから硫酸を製造する施設に付随する除害塔の放出口(高さ35m)から、亜硫酸ガスが放出され、付近約500mの範囲に拡散したもの。
67	漏洩	2	4	18	和歌山県	なし	タンクから別のタンクへ廃油を移送する際、セパレーター行き配管のバルブを閉め忘れ、廃油がセパレーター内へ流出した。
68	火災	2	4	22	千葉県	なし	電気設備(スポットウエルダー)が断線し、火災が発生したもの。初期消火済み。
69	火災	2	4	23	大分県	なし	酢酸エチル製造施設に係る電気室内の高圧盤リアクトルが燃焼。鎮火は、本日23日9:46。
70	火災	2	4	24	山口県	なし	三フッ化塩素製造施設(ノンコード:高圧ガス非該当)において、三フッ化塩素充填中に発火。消火器により初期消火し鎮火。外部への影響なし。
71	その他	2	4	26	神奈川県	なし	事業所内にある高さ20メートルの送電線から、一時的に火花が上がったもの。(非火災)
72	火災	2	4	27	愛知県	なし	愛知製油所内の製造施設にて火災が発生。フレアスタックに至る手前の配管から可燃性ガスが漏えいし、出火したもの。系の上流からの窒素ガスの導入を15:54に開始し、19:57鎮火。
73	漏洩	2	4	29	愛知県	なし	ガス配管に穴が開き、アンモニアガスが漏えい。ガス警報器が作動。バルブ閉鎖により漏えいは止まっている。
74	漏洩	2	4	30	山口県	なし	プロピレンコンプレッサー立ち上げ中に、潤滑油配管サイトグラス破損により、潤滑油が漏えい。縁切りにより漏えいは停止。漏えいした潤滑油も回収済み(数十Lと思われるが詳細調査中)。海上への流出なし。
75	火災	2	5	3	愛知県	なし	ブルドーザーで高炉工場から出た廃材(スラグ)を集めていた際に、ブルドーザーのエンジンルームより黒煙を確認し、エンジンルームを開けたところ、炎が上がったもの。消化器にて初期消火を実施するも火勢が収まらず自衛消防隊にて消火活動を実施。火勢が収まったため、公設消防隊については消火活動未実施。
76	漏洩	2	5	6	神奈川県	なし	事業所内の苛性ソーダタンクの配管センサーに異常が生じ、タンクから苛性ソーダ約100リットル漏洩したもの。事業所の中和剤にて中和処置した。同日7:03処理完了。
77	漏洩	2	5	7	千葉県	なし	タンクからの移送配管から、ナフサ約10リットルが漏洩したもの。ナフサの海上への流出はなし。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
78	漏洩	2	5	9	愛知県	なし	洗浄用の56インチの仮設配管(ピグ装置)で、動作確認のため配管に圧力をかけたところ、ピグが防油堤沿いにある約11本の配管が密集したエリアに飛散して配管を破損させたもの。窒素等の漏れはなく、漏れしたのは工業用水の配管のみだった。
79	漏洩	2	5	9	千葉県	なし	高級アルコール製造施設からメタンガスが漏洩したもの。(高圧ガス施設ですが、漏洩箇所は低圧部となります。)
80	火災	2	5	12	千葉県	なし	液状エポキシ樹脂を製造する工程において、何らかの原因で可燃性ガスが漏れ、爆発したもの。同日2:35鎮火。
81	火災	2	5	14	茨城県	なし	構内の配電盤から出火し火災となったもの。なお、同日11:05鎮火、負傷者無し、詳細は調査中。
82	火災	2	5	15	愛知県	なし	プラント付近の倉庫が延焼。延焼面積は約1㎡から2㎡。燃焼物は養生シート等であるが、発火源等は不明。自衛消防隊により鎮火。消防本部の常備消防隊は鎮火確認後、残火処理を行い、帰署。
83	火災	2	5	15	愛知県	中等症1名	工場内において、高所作業車により地上4m程度の配管ラックへ溶接作業を行っていたところ、高所作業車バスケット内に存置してあった塗料を入れた容器(丸缶1リットル)に溶接火花が飛来し引火したもの。その際にバスケット内で作業していた作業員の下衣に燃え移り、下腿に熱傷(Ⅰ度(ローマ数字))を受傷したもの。社用車で病院へ搬送し、搬送先病院からの転院搬送依頼により消防が覚知した。なお、塗料の消化に消化器を使用したため、石炭法上の異常現象の出火に該当し、報告の対象となったもの。
84	火災	2	5	16	山口県	なし	肥料及び有機・無機工業製品等を製造している危険物製造所の1階東側荷受室で14:31、当該危険物施設1階の自動火災報知設備が鳴動したため、1階を確認したところ、1階東側荷受室の廃棄物から出火しているのを確認し、建物に設置している消火器2本で消火したもの。
85	漏洩	2	5	17	茨城県	なし	パースにて、海上へ危険物(重質軽油、推定漏洩量:14リットル)が、ガードベース出口から漏洩が発生し、海上に幅2~3メートル×長さ20メートルの油膜が発生した。現在、漏洩は停止している。海上において、通常オイルフェンスに追加して、オイルフェンスを展開済み。海上オイルフェンス内の油分は、吸着マットで回収済み。
86	破損	2	5	20	神奈川県	なし	浮き屋根式屋外タンク貯蔵所(軽油貯蔵、許可容量12,244KL)の付属設備であるローリングラダー(可動はしご)が破損したもの。破損したローリングラダーの落下防止措置を、チェーンブロック等で実施。浮き屋根デッキ板等の破損及び危険物の漏洩は無し。
87	火災	2	5	21	広島県	なし	アクリルゴム製造施設における樹脂プラスチック遠心ろ過する工程における熱冷却のため、潤滑油を使用しているが、当該潤滑油の水冷却ラインに潤滑油が混入していることを発見。現在、措置完了(脱水機停止し、潤滑油漏えい停止)しており、火災の恐れ、外部への流出もない。
88	火災	2	5	23	広島県	なし	塩水溶解タンクのライニング取替のため開放していたところ、ゴムライニングがなんらかの原因により出火し、火災となり、事業所外から確認できる程度の黒煙が発生したもの。火災は09:39消防により鎮火を確認。施設外への影響なし。
89	火災	2	5	23	千葉県	なし	高炉工場内に設置されている11kVA高圧盤の一部(受電及び遮断機ユニット)を焼損した建物火災。
90	火災・損壊	2	5	26	大分県	なし	定期修理中、蒸留塔(タワー全長60メートル)の50m付近から何らかの原因で出火し、高さ30メートル付近から倒壊。消防による消火活動が行われ、5月27日05:35に鎮火確認。
91	火災	2	5	29	三重県	なし	粉碎した石炭を石炭ボイラー(微粉炭火炉)へ送る6B配管と石炭ボイラーとの接合部分から出火したもの。従業員により消化器にて初期消火を実施。
92	漏洩	2	5	29	千葉県	なし	タンクT-116ルーフ上に油30ccの漏洩を確認。現在は、漏洩停止。
93	爆発	2	5	30	千葉県	中等症1名 軽症1名	ポリプロピレン重合施設内の熱交換器付近で作業していたところ、配管内に溜まった雨水とポリエチルアルミが接触し、爆発。爆発した際、その蒸気と炎を浴びて作業員2名が負傷。
94	漏洩	2	5	31	岡山県	なし	2年に1回の交換周期であったポンプの圧力計を交換するため、当該圧力計を取り外したところ、アスファルトが噴出し、約120L漏えいした。当該漏えい部分を縁切りし、漏えい停止。アスファルトの敷地外への流出はない。
95	火災	2	6	3	山口県	なし	定期修理での溶接工事中、工事場所の下部に置いてあったフレコンバッグ及び断熱材(グラスウール)に着火し、火災に至る。その後、消火器3本で消火した。
96	漏洩	2	6	7	千葉県	なし	石油類アセトニトリルが、保湿施工の配管から3滴程/1秒間漏洩。同日13時55分、事業者により配管内の残液処理措置等を実施し、現在は漏洩停止している。漏洩量は、現在調査中。
97	漏洩	2	6	8	大阪府	なし	タンク移送配管バルブのボンネットに亀裂が入り、軽油約10Lが漏えい。12:46頃に軽油の漏えいは停止。最終漏えい量は 約120L(防油堤内30L オイルパン内90L)外部への流出はなし。配管内の滞油除去作業は継続中。
98	漏洩	2	6	8	広島県	なし	工場敷地内で、大竹港を起点としたC重油移送配管から、C重油が10リットル程度地面(砂)に浸透したもの。ドラム缶にて回収。
99	火災	2	6	10	神奈川県	なし	事業所内のコークス工場のコークス及び廃プラ(還元剤)の中継建家内のホッパー及びベルトコンベアから黒煙確認。6月10日 17:16鎮圧。同日19:03鎮火。(燃焼物質は、コークス(指定可燃物)及び廃プラ)
100	漏洩	2	6	15	山口県	なし	洗浄槽に洗浄液(漏えい物質)を充てんしていたところ、別の洗浄槽に接続するためのフレキシブルホースから漏えい(約20L)した。洗浄液配管は、メインタンク元弁から8つの洗浄槽に分岐しており、その先端のコックからフレキシブルホースで各洗浄槽に洗浄液を注入する構造であった。漏えいのあったフレキシブルホースは、前日に当該洗浄槽に充てんした後、コックを閉め忘れていた。系外への流出はなく、漏えいした洗浄液は吸着マットで全量回収済み。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
101	火災	2	6	15	千葉県	なし	溶接作業を実施していたところ、何らかの原因により溶接用ケーブルが燃えた。現在、鎮火済み。
102	漏洩	2	6	15	神奈川県	なし	移送取扱所タンカー出荷配管設備の接合部から、危険物(ジエチルグリコール)が約20リットル漏洩。海上への流出は無い。翌日16日(火)00時03分、漏洩停止措置完了。現在、漏洩は無い。
103	漏洩	2	6	17	千葉県	なし	出荷棧橋の軽油ローディングアームから、軽油が漏洩。海上への漏洩は無い。措置により漏洩は、現在停止している。漏洩量については、現在確認中。
104	漏洩	2	6	19	岡山県	なし	廃油屋外タンクから屋外タンクに廃油を移送する配管に小さな穴が開き、廃油が噴霧状に約139L漏えい。当該漏えい部位を縁切りし、漏えい停止後、応急措置を実施。廃油の場外への流出はない。
105	漏洩	2	6	20	和歌山県	なし	ドラムタンクから蒸気らしきものが噴出(詳細確認中)
106	火災	2	6	25	神奈川県	なし	建屋内の変電設備の負荷開閉器に雨水が垂れ、短絡し発火したもの、事業所職員により消火したもの。同日7:51公設消防により鎮火確認。
107	漏洩	2	6	27	神奈川県	なし	施設オーバーヘッド部の配管から、危険物(ナフサ)が約20リットル漏洩。同日11時20分、漏洩停止措置完了。現在、漏洩は無い。
108	漏洩	2	6	30	大阪府	なし	重質油熱分解装置 重質軽油循環ポンプ入口部から重質軽油が漏えい(漏えい量不明だが少量である)。